

議 事 録

会議名	丸森町復興推進委員会
日時	令和5年10月27日(金) 13:30~15:10
場所	丸森まちづくりセンター 2階 大集会室

1.出席委員 別紙「出欠確認表」のとおり

2.開会（司会：復興対策室 八巻室長補佐）

3.議題（議事進行：大槻委員長）

（1）丸森町復旧・復興計画実施計画書について《説明：復興対策室長》

・資料1、参考資料1、2を基に説明

【質疑応答】

大槻委員長：今の説明や、配布された資料の中でご不明な点があればご意見を頂きたい。

柴山副委員長

全体を通して、わかりやすい表現をお願いしたい。年度の経過に伴い、施策が進んでいるのか遅れているのかわかりづらい。東北大学に相談してもらっても良い。

⇒佐藤復興対策室長：表記の仕方については、今後検討したい。ぜひご指導をお願いしたい。

大槻委員長

1. 基本施策3「活気あふれる産業・生業の再建」が全く進んでいないように見える。

⇒八巻建設課長：復旧事業については、「(1)魅力ある農業の再興」を例にとれば、R3年度の実績値58から、R4年度は90に向上しているので、事業は進んでいるが、事業が完了しなければ、目標達成とはならないので達成率が低くなっている。

2. 「安全・安心メール」に関してLINEの活用について検討して欲しい。

⇒大内総務課長：LINEについては、メールと比べてメリットもあるので検討して行きたい。

（2）復旧・復興の進捗状況について《説明：復興対策室長》

・資料2-1、2-2を基に説明

大槻委員長：今の説明や、配布された資料の中でご不明な点があればご意見を頂きたい。

柴山副委員長

1. 事業が進んでいるのか、遅れているのかわかりづらい。資料を工夫して欲しい。

2. 資料2-1 「復旧・復興の進捗状況について」の6ページ「被災者への生活支援相談員訪問件数」について、今年度の「その他」（在宅被災者？）の訪問件数が非常に増えている。（9月末までに596件）この要因は？ 新たな問題が発生していないか？

⇒佐藤復興対策室長：再建できたかどうかの最終再建確認の訪問を実施しているため訪問件数が増加している。

※次ページに続く

上村委員

町営住宅、災害公営住宅などの新しい住宅でのコミュニケーションの形成について、いつごろまで支援を継続するのか？

⇒八巻室長補佐：被災者見守り推進事業でのスキームで支援を継続。町営神明住宅、神明北住宅でもサロンを継続開催。自主的なサロン、住民がお互いに主体的に見守りできるような体制を構築していきたい。町民ボランティアも関わっている。さらに住宅会での地域活動を通じた見守りなど、多面的な見守りを実施している。

大槻委員長

農地の復旧予定を、住民が見えるようにできないか？

⇒谷津専門官：地権者に対し、業者と工程を組み、お知らせする予定。

佐藤隆委員

町道の復旧状況について、通行止めの解除情報などを提供して欲しい。消防団の活動に影響あり

⇒谷津専門官：現在、林道鷲ノ平線は通行止め。他は復旧している。

谷津委員

河川防災ステーションについて、どのような検討が進められているのか？ 新しいものができるとプラス面、マイナス面が出てくる。（349号山側ルートも影響があるのではないかと）

⇒加藤専門官：令和7年度に完成予定。水防センターとして防災に関する機能、災害記録の伝承、防災学習の他、にぎわいづくりの拠点として整備を予定。11月中旬に説明会を予定している。

⇒柴山副委員長：防災ステーションの検討委員全員で、ハブとして拠点化することを考えている。まずは町外からの訪問客が最初に目指す施設として機能させたい。併せて防災機能もしっかり強化していく。

早川委員

1. 自分自身被災したもののボランティアを受け入れた。自分の宿では、当時は女性しか受け入れできなかったが、その後近くでシェアハウスを立ち上げ、男性の対応もできるようにした。町が音頭を取って、町内の団体や個人と、被災者やボランティアを受け入れるための協定を結ぶことはできないか？ また、男性用の仮設トイレの支援などをお願いしたい。

2. 「まるもり宝の山構想」に関心があり、近くの山林を手入れしたことがある。ごみなどが廃棄されていて大変だった。災害発生に備え、山林の手入れは必要なので、町からの支援をお願いできないか？

⇒大内総務課長：被災者の救助やボランティアの受け入れについて、社協や保健福祉課と連携し協定などを検討していきたい。

⇒引地農林課長：早川委員からは、いろいろなパブコメを頂戴しそれについて検討も進めている。現在、林業従事者の所得向上などに重きを置いているが、災害抑止の山林整備なども必要なので、環境に踏み込んだ施策が可能かどうか検討して行きたい。

※次ページに続く

(3) その他《説明：復興対策室長》

・資料3を基に説明

1. 「次代につなぐ新たな丸森づくりマップについて」

柴山副委員長：作成した年の記載がない。今後管理するうえで必要となる。今後気を付けて欲しい。

2. 「令和元年東日本台風災害記録誌」の紹介

3. 柴山副委員長：農地関連予算など当初予算との数字のギャップが大きい。

⇒八巻建設課長：37ページの記載などが対象となる。

農地関連の当初予算は、被害面積に応じた査定を受け策定した。金額が大きくなっている。

その後測量、設計をして、詳細な査定をした上で正式に発注している。

(54ページも同様)

柴山副委員長：資料の表記方法は考えて欲しい。

わかりにくいところをわかりやすく説明して欲しい。

まだまだ復興は終わらない。

委員の皆様は、実績をチェックし、逐次意見を出すようにして欲しい。

※ 以上